

## 当院におけるシステムダウン時の輸血業務体制の評価

◎清水 みゆき<sup>1)</sup>、鳥居 知美<sup>1)</sup>、飯田 眞理<sup>1)</sup>、伊藤 裕子<sup>1)</sup>  
大垣市民病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院では年に一度、紙運用を用いた災害訓練を行っている。主に伝票作成・検体提出・製剤請求と払い受けの行動確認をしているが、模擬検体や模擬結果を利用するため、ヒューマンエラーを防ぐための行動確認に重点が置かれていない。実際にシステムダウンした場合には、患者間違いや、結果の転記ミス、伝票の作成ミスなどのヒューマンエラーを不慣れな環境の中であっていかん防止するかが重要なポイントのひとつであるが、これを訓練する機会がなかった。今回電子カルテシステムの更新にあたり、予定されたシステム停止の機会があったため、これを利用して現在の体制を評価してみた。

【取組み】電子カルテシステムの停止期間は2019年4月30日の0:00~24:00の24時間であった。システムダウン時は、患者確認・検査結果の記入・製剤の割り付けから払い出し、輸血の終了までシステム監査がかからないため、2名確認を必要としている。評価する内容はシステムダウン時のマニュアルの周知度と、日頃やっていない行動を正しく行うための十分な理解があるか、全スタッフにおける現状把握である。①技師については、知識や行動の確認を行い問題がないことを確認の上配置した。2名確認を行ったとしても、日頃やっていない行動であり精神的な不安があるため、検査と製剤の払い出しに関する行動確認シートを新たに作成した。②技師以外のスタッフに対しては、院内で定められた輸血担当看護師を集め、直前に知識や行動の確認を行った。さらにこの輸血担当看護師が各部署の看護師へ伝達を行った。また、現場で顔をあわせる医師に必要であれば助言をしても

らうように依頼した。基本的には停止期間中に輸血が待てない場合にのみ製剤を請求することを院内の共通確認事項としたが、依頼される可能性の高い救急外来では、当日勤務対象者である医師、看護師、技師で検査や製剤請求の一連の流れをシミュレーションし、行動確認を行った。

【結果】①今回は紙運用経験者と輸血室スタッフで行ったため特に大きな問題はなかったが、休日・夜勤勤務者など、経験を積んでいないスタッフも同様に理解できているかは疑問である。一方、手順書に定められた事柄をまとめた行動確認シートによる確認を行うことでより安心感が生じ、経験不足も補えた。②看護師への説明会や救急外来でのシミュレーションを通して知らない、勘違いなど知識不足が散見され、教育不足が浮き彫りにされた。マニュアルの配布と年1回の訓練では十分でないことがわかった。今回は、その場で認識と行動の確認を行い、システムダウンに備えることができた。

【まとめ】今回は事前に十分な教育をやることで大きな問題はなく終えることができたが、急なシステムダウンや災害に備えて形式的なものではなく、ヒューマンエラーを防ぐ行動を含めた全体の行動確認や経験を積むことが重要であることが再確認できた。今後、休日・夜勤勤務者に対してシステムダウン時の対応の認識度を評価し、定期的にトレーニングを行っていきたい。

【連絡先】大垣市民病院 輸血センター  
0584-81-3341 (内線 1171)